

CENTER NEWS 2009. **7** NO.275



協同組合 関西地盤環境研究センター

表紙説明

今年3月から情報化小委員会の委員に任命されました、東邦地水株式会社の山岡 哲夫です。

前月号から、表紙写真のテーマとして土木・建築物となりましたので、今月号はWTCビルへの移転問題で揺れている大阪府と、大阪市のそれぞれの庁舎を撮影しました。

計画当初は両首長とも前向きだったのですが、現時点では大阪府議会の反対や大阪市側からの「同時移転は難しいのでは」と声が上がっており、今後この移転問題がどのようになるか見当もつきません。

我々業界も先が見えない状態が続いておりますが、一刻も早く先が見えることを願うばかりです。

<今月号の写真コメント>

上段：大阪府庁舎

下段：大阪市庁舎

目次

2期目の理事長としての抱負 高村 勝年	1
5月定例会	3
5月主な会議・会合・行事	4
5月受注・完了(月別・推移)計画対比グラフ	5
第29期通常総会報告書	6
平成21年度 特別技術者講演会	9
組合員技術者紹介コーナー(第62回) 今西 立昌	10
お知らせ	11
E-ディフェンス見学会に参加して 桑島 靖枝	12
E-ディフェンス見学会報告 中山 義久	14
第2回ケータイフォトコンテスト作品募集	15
ジオ・ラボ中部との合同研修旅行記 阪部 秀雄	16
編集後記	18

2 期目の理事長としての抱負



協同組合 関西地盤環境研究センター
理事長 高村 勝年

初夏の薫る季節になりました。屋外で活動するには最高の気候ですが、新型インフルエンザ対策でのマスク着用で、芽吹いた花木の甘い香りを嗅ぐことが出来なかった方も大勢いたのではないのでしょうか。私も今年から一つだけ行動を変え、早起きをして公園や河川敷を自転車に乗って散策しております。車の騒音も無く、風は肌に心地よく当たり、思わず歌を口ずさむこともあります。府道の斜面地に美味しそうな野苺が群生していたり、ゴミだらけの沼地に綺麗な菖蒲が咲いていたり、汚い川だけど大きな鯉が浅瀬で重なり合いバシャバシャと産卵している場面に出くわすこともあり、すごく感動しながら少しだけ幸福な気分になっております。その反面、汚くしてしまっただけ申し訳ないなあという気持ちに駆られるときもあります。皆さんも一度体験してみてください。忘れかけていた素朴で純粋な心、自分の意外な心を発見できるかもしれません。活動するときはゆったりとした気持ちで余裕を持って臨んで下さい。ムリをせずに毎日継続させて体力と気力を十分に養い、家庭や仕事・趣味に活用して楽しい人生にして下さい。

5月26日に守口移転に伴う新棟の竣工式・29期通常総会・懇親会を兼ねた祝賀会を無事に執り行うことが出来ました。これも一重に皆様方のご協力とご支援の賜物と心から感謝いたしております。新棟の完成によりまして一箇所での試験が出来るようになります。試料運搬や試験立会い等でご不便をお掛けしておりましたが、これからは利便性も向上すると確信しておりますので、皆様方の一層のご利用を期待しています。

通常総会では、従来の事業活動を維持できる金額、事業収入2億4千万円を提案し承認して頂きました。また、役員改選が執り行われ、理事留任4名、新理事6名、合計10名と監事留任2名が決まりました。理事経験が一番長い私が理事長に再任され、2年間お世話させていただくことに成りました。今期は受注が伸びずに厳しい運営が予測され、規約等の見直しを始め色々な面で変革を行な

わなくてはなりません。調査専門家、測量設計、コンサルの方々に参加して頂き、その中から過去の経緯を知っている方に副理事長と専務理事をお願いいたしました。また、前澤専務理事は顧問として残って頂き、計 3 名の先生方には技術指導や人材育成にご尽力を賜りたいと思っております。

建物も完成し、新役員も決まりましたので、これを機に、全てを新たにして、更なる効率アップと品質向上を行い、色々な形で組合関係者の皆様に還元できるよう運営していく所存です。

また、地質調査業界の地位向上を目的とし、地質業界の近代化と結束のシンボルとして広く社会にアピールできる施設、組合と組合員及び技術者の心と心が繋がった施設、即ち皆の組合「組合員のための組合」として大いに成長できれば良いと願っております。今年度も格段のお力添えを頂けますようお願い申し上げます。

4,5月の受注は激減しており厳しいスタートとなっておりますが、日経平均株価も8ヶ月ぶりに1万円台に回復してきました。政治は不安定ですが景気は上向く傾向が窺われます。

関連業務の発注が早まる事を期待し、もう少しだけ辛抱をして頑張ってください。

第29期 通常総会報告

平成21年5月26日（火）大阪キャッスルホテル（大阪府中央区天満橋京町）会議室において、第29期通常総会が41名（内委任状によるもの10名）の組合員の代表者を集めて開催された。

15時00分、当総会の資格審査を行った後に、小路理事が開会を宣した。

まず、高村理事長が第29期の組合運営と事業の概況等の報告を行った。

続いて、司会者 森 辰義が議長選出について議場に諮ったところ、三木 秀樹が満場異議なく選任され議案の審議に入った。

1. 議 案

第1号議案 平成20年度 事業報告書承認の件

議長は澤専務理事をして、議案書資料の各項につき報告をさせた。

- I. 事業活動の概況に関する事項
 1. 試験事業実施状況
 2. 直前3事業年度の財産及び損益の状況
- II. 組合運営の状況に関する事項
 1. 総会の開催状況
 2. 理事会の開催状況
 3. 委員会・部会・講演会等の開催状況
 4. 主たる会議・会合・行事
 5. 組合員数及び出資口数
 6. 役員に関する事項
 7. 職員の状況及び運営組織図
 8. 施設の設置状況
- III. その他組合の状況に関する重要な事項

以上第1号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第2号議案 平成20年度貸借対照表・財産目録・損益計算書並びに剰余金処分（案）承認の件

議長は総務部会財務担当黒田理事をして、平成20年度決算報告を議案書資料の貸借対照表・財産目録・損益計算書及び収支予算額・決算額対比表により詳細に説明させた。

続いて、議長は高村理事長をして、平成20年度の剰余金処分（案）を詳細に説明させた。

次に議長は谷垣監事をして、平成20年度の会計監査報告をさせた。

以上第2号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第3号議案 役員報酬（案）承認の件

議長は高村理事長をして、平成21年度の役員報酬について説明させた。

以上第3号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第4号議案 平成21年度事業計画（案）並びに収支予算（案）承認の件

議長は高村理事長をして、平成21年度の試験単価（案）及び賦課金徴収（案）並びに会議室使用料（案）について説明させた。

続いて議長は、白木所長代理をして地盤環境試験単価の改正（案）について説明させた。続いて議長は、四方副理事長をして平成21年度の事業収入計画（案）並びに平成21年度の収支予算（案）について説明させた。

以上第4号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第5号議案 平成21年度借入金限度額（案）承認の件

議長は高村理事長をして、平成21年度借入金限度額（案）について説明させた。

以上第5号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第6号議案 平成20年度新棟増築費用報告及び今後の予定の件

議長は澤専務理事をして、守口試験室の処分提示額について説明させた。その後、平成20年度の摂津試験室新棟増築費用並びに今後の予定について詳細に説明させた。

以上第6号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第7号議案 その他の件 審議事項なし

以上で議案は全部終了したので、議長は降壇した。

2. 組合員脱退報告

高村理事長が、株式会社 建設企画コンサルタント、株式会社 土質工学研究所が平成21年3月31日付けで自由脱退した事を報告した。

3. 新規入会賛助会員報告

高村理事長が、株式会社 ソルブレインが平成21年1月6日付けで賛助会員に入会し、賛助会員が6社になった事を報告した。

4. 役員改選

高村理事長が、定款第25条1項の規定により、全理事及び監事の任期満了とそれに伴い改選を行う事を説明した。

続いて司会者は、改選方法等を説明し、審議の結果指名推選の方法による事となり、選考委員を3名推挙した。選考委員は別室において慎重に審議し、その結果を次の通り発表した。

理事	高村	勝年	株式会社関西地質調査事務所	代表取締役
理事	四方	克明	阪神測建株式会社	代表取締役
理事	窪田	博之	株式会社アテック吉村	代表取締役
理事	小路	博之	株式会社ヨコタテック	代表取締役
理事	都留陽次郎		株式会社東建ジオテック	取締役大阪支店長
理事	寺西	一哲	株式会社ソイルシステム	代表取締役
理事	藤井	勉	株式会社エイトコンサルタント	取締役関西支社長
理事	田中	政憲	復建調査設計株式会社	常務執行役員大阪支社長
理事	本田	周二	株式会社日建設計シビル	地盤調査設計部長
理事	佐藤	和志	協同組合関西地盤環境研究センター	相談役
監事	山本	善浩	双葉建設株式会社	代表取締役
監事	谷垣	勝久	株式会社タニガキ建工	取締役

以上、上記被指名人をもって当選人とするかを議場に諮ったところ、満場異議なく可決承認した。

尚、当選者は全員即時就任を承諾した。

以上で全部終了したので、17時5分に窪田理事が閉会を宣した。

平成21年度特別技術講演会

土壌汚染対策法改正による 今後の地質調査業のありかた

今年度の特別技術講演会は、昨年度の特別技術講演会の際に行われたアンケートで最も多くのご要望を頂きました土壌汚染について、「土壌汚染対策法の改正による今後の地質調査業のありかた」というテーマでご講演を頂きます。是非ともご参加頂きますようお願い申し上げます。

日 時： 平成 21 年 7 月 22 日(水) 14:00～17:30 講演会
18:00～20:00 懇親会

場 所： ラマダホテル 大阪(地下鉄御堂筋線中津駅3号出口直結)

テーマ： 土壌汚染対策法の改正による今後の地質調査業のありかた

内 容： 土壌汚染対策法の改正点と今後のありかた

大阪市立大学大学院 特任教授 畑 明郎 氏

土壌汚染対策とリス クコ ミニユ ケーション

株式会社淡海環境デザイン 代表取締役 姜 永根 氏

土壌汚染調査における地質調査業者のあるべき方向を探る

NPO 法人 日本地質汚染審査機構 理事 上砂 正一 氏

参加費：(組合員) 3,000円 (賛助会員・非組合員) 5,000円
(資料代、懇親会費含む)

※ 参加費は当日受付にてお願い致します。

C P D : 3.0

定 員 : 40名

参加ご希望の方は、ジオスクーリングネット (<https://www.geo-schooling.jp/>)よりお申し込みください (組合員・賛助会員の方は参加資格を会員としてください)。

ジオスクーリングネットの会員でない方は、氏名、所属、連絡先電話番号を明記の上、e-mail(service@ks-dositu.or.jp)にてお申し込みください。

(申込期限:平成 21 年 7 月 15 日)

組合員技術者紹介コーナー(第 62 回)



所 属：株式会社 関西地質調査事務所

氏 名：今西 立昌

生年月日：1969 年 2 月 12 日

関西地質調査事務所の今西と申します。ハザードマップ研究会で一緒しています中堀ソイルコーナーの久木さんからご紹介頂きましたので、稚拙ながら雑文など書かせて頂きますのでご笑読ください。

ごくごく普通の家庭に、関東の普通の住宅団地で生まれ、普通の戸建住宅に引越し、普通の進学をして普通に下宿生活を送りました。普通の就職をし、実家から離れた普通の勤務地で普通にリストラにあいました。普通に再就職をし、普通に勤務し、普通の生活と休日をごす毎日です。こんな暮らしを続け、普通の年齢になりました。唯一他と違うところを探すのであれば、通勤時間が徒歩 5 分というくらいのものでしょうか。

そんな普通を絵に描いたような私ですから、自己紹介など書かせて頂いたとしても何の面白味もないと思います。ですから、自分のことはこれくらいにしたいと思います。

さて、センターニュースの事務局からの原稿依頼には次のように記載されていました。

タイトル： 自 由

※ 会社名、氏名、生年月日、出身地等のプロフィールを簡単に結構ですでお書き頂き、差支えがなければ顔写真をご添付下さい

本来の趣旨は「好きに書いて良い」という意味なのかもしれませんが、ここは敢えて「自由(FREEDOM)」について考えてみようと思います。

私の場合、フリーダムと聞いて真っ先に思い浮かべるのは、「フリーダムポテト」です。

ファーストフードなどで日本人にもなじみの深いポテトフライ。アメリカではこれをフレンチポテトと呼びます。時は 2003 年、アメリカのイラク攻撃に対してフランスは強硬に反対を唱えておりました。これに対して米国議会での反発が強まって、議会内のレストランのメニューからフレンチポテトが消え、代わりにフリーダムポテトが登場したのです。コメントは控えますが、これを読んでいる皆様と同じ気分であろうと予測します。

次に右の写真を見ていただきたいと思います。
「アメリカン・フリーダム」と書かれた下に「メイドイン・チャイナ (中国製)」。海外ネットでも話題を集めているそうです。これを笑って流せるくらいの心の余裕は、常に持っていたいものですね。



さて次回は、サービス支援小委員会において
同委員をされている株式会社エイト日本技術開発の中野英樹さんを紹介させていただきます。

未だ2度しかお会いしたことがないにも係わらずお願いすることに心苦しさを感じなくもないのですが、人の縁とはこのようなものかとも理解しております。宜しくお願い致します。

お知らせ

☆ 組合員社名変更

株式会社エイトコンサルタント が、平成 21 年 6 月 1 日付けで
株式会社エイト日本技術開発 に社名変更されました。

☆ 夏季休暇のご案内

今年度より、当センターは経費削減のため夏季休暇を職員一同、
一斉取得することとなりました。皆様、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

本年度の予定は下記のとおりです。

- 8月13日(木) 夏季休暇
- 14日(金) 夏季休暇
- 15日(土) 休日
- 16日(日) 休日

Eーディフェンス見学会に参加して

(株) ダイヤコンサルタント関西支社
桑島 靖枝

5月13日実大三次元震動破壊実験施設（Eーディフェンス）見学会に参加させて頂きました。

新大阪駅集合、参加人数が少ないと聞いていたのですが、かなり大人数。しかも大きな貸切バスにバスガイドさんまで付いて、個人的には遠足気分で現地へ出発。しかし、バスの中では参加者全員にマイクを回されて自己紹介をさせられるという、内気な私にはとても過酷な状況が待っていました。他の参加者の方々は人前で喋ることも慣れているらしく、とても堂々と自己紹介+見学動機を語っておられました。

大阪から一時間程で三木市の広大な敷地に建てられた三木総合防災公園に到着。Eーディフェンスはこの中の一施設です。

ご存知の方も多いと思いますが、Eーディフェンスは1995年の兵庫県南部地震で多くの構造物が未曾有の被害を被ったことから、耐震性の評価方法を見直す必要が認識され、構造物の破壊過程を調べるために建設された実験施設です。ちなみにEはEarth（地球）ディフェンスはDefense（防衛）、地球規模で災害を未然に防ぎ、国民の生命と財産を守る研究開発への期待を示しているそうです。

運が良ければ公開実験を間近で見ることが出来るのですが、今回は残念ながら実験は行っていませんでした（公開実験の状況は写真1参照）。

私達はビデオで破壊実験の様子を見せて頂き、実験棟を見学しました。実験棟では、今後実験を行う7階建ての木造建物を建築中でした。近い内に実験が行われる（た？）かもしれません。興味のある方は見学申し込みをして、是非行ってみてください。

その後は、隣接された兵庫県広域防災センターを見学。こちらは消防学校として整備された消防訓練施設、設備を一般の方も体験できるように開放された消防・防災体験型の施設です。消防士の卵の爽やかな訓練風景も見られ、こち

らでは目の保養が出来ました。

最後にシメとして、三木総合防災公園をぐるっと一回りし、陸上競技場や屋内テニスコートの中に入り、センター職員お勧めのテニスコート内トイレの中を見学し（私はそこら辺のトイレと変わらないと思いましたが）、公園のあまりの広さに圧倒されながら帰途につきました。

防災の重要性を改めて実感しつつ、自然の中で半日を過ごせ、身も心もリフレッシュ出来ました。またこのような機会があれば参加させて頂きたい（自己紹介は勘弁ですが）と思っております。



写真1 鉄筋コンクリート構造物(総重量1,000t) 破壊公開実験
(2006年1月 撮影：鏡原)

E-ディフェンス見学会報告

協同組合 関西地盤環境研究センター

所長 中山義久

去る5月13日、支援サービス小委員会主催の「実大三次元震動破壊実験施設」（通称 E-ディフェンス）見学会が催されたので、ご報告申し上げます。

当日の参加者は総勢33名、（組合員25名）でした。新大阪駅に午後1時30分集合、バスで三木総合防災公園内の施設へと向かいました。移動中は古田委員長の挨拶、全員の自己紹介、組合員へのセンターとしての取り組み説明、および昨年行われた特別技術講演会のビデオ放映を行い、有意義な移動時間となりました。



写真-1 熱心に聞き入る参

到着後、ビデオによる施設の概要説明を受け、実際に施設内を見学しました。当日はあいにく、E-ディフェンスの震動台点検時期にあたり、震動台(写真-3の中央付近 20m×15m)には試験体となるべき建物は載っておらず、せっかくの見学できるという期待もあり、少し残念な思いがしました。それでも、写真-1のように参加者の面々は、施設係員の説明に熱心に耳を傾け、時には土木屋としての鋭い質問を投げかけておりました。



写真-2 試験体の搬入出口

このような施設で素直に驚かされるのは、その大きさです(ちなみに室内高は48mです)。写真-2は試験体の搬入出口のようすで、参加者の身長と比較してもその規模が分かります。

E-ディフェンス見学会後、三木総合防災公園内の施設見学会も行い、同公園が災害時の緊急援助物資の格納庫になっていること、園内の道路が大型車両の通行も考えた幅員になっていることなども学習しました。

夕方、新大阪で解散し、有意義な見学会であったと自負いたします。



写真-3 震動台を望む



写真-4 参加者の面々

第2回 ケータイフォトコンテスト テーマ“夏”

仕事場や旅先での一コマ、プライベートでの出来事、メッセージを伝えるワンショットなど、ケータイフォトに粋な題名を添えて応募してみませんか？

センターニュースでは、組合員の皆さんが携帯電話で撮影した写真を募集し、フォトコンテストを開催しております。

機材の性能や技術の差が出にくいケータイフォト限定なので、素人の方でも入選が狙えます。なお、入選者には豪華賞品？を用意していますので、奮ってご応募ください。

[応募方法]

携帯電話で撮影した写真データに下記の事項を必ず書き添えて、メール「E-mail : [jyoho@ks-dositu.or.jp](mailto: jyoho@ks-dositu.or.jp)」にてご送信ください（お一人様の作品は1点にてお願いします）。

- ① 題 名
- ② 撮影した組合員の会社名と所属
- ③ 撮影者氏名（ペンネーム可）
- ④ 連 絡 先



こちらの QR コードからも
申込できます

[〆切]

平成 21 年 8 月 10 日（月曜日）午後 5 時迄 です。

[注意事項]

ご応募頂いた写真は HP でも公開することがありますので予めご了承ください。また、人物・美術品・写真等、著作物もしくは肖像を作品に使用する場合は、予め著作者や被写体の方などから事前の使用許諾・認証を得た上でご応募ください。

ジオ・ラボ中部との合同研修旅行記

協同組合 関西地盤環境研究センター

環境技術課 阪部 秀雄

去る6月13日から14日、土・日の休日を利用して、我がセンター有志17名は那智勝浦へ乗込んだ。

有志の中には2名の新入社員も含まれており、この2名にはとても苦難を背負わせてしまった。というのも、センターの研修旅行は、職員の毎月の積立金で全額をまかなっており、入社間もない新人さんは、十ヶ月程の積立金をいきなり背負わされる。これは社会の荒波の第一波であり、私も入社一年目を思い感無量であった。

それはさておき、今回は中部土質協同組合（ジオ・ラボ中部）と合同研修旅行であるが、互いの組合どおし同じ旅館に泊まっての宴会研修だ。実は、この企画は昨年からは引続き二回目で、そのきっかけは何を隠そう“私”である。一昨年、ジオ・ラボ中部へ見学研修に訪れた際、懇親会の席で、「中部さんは東から、関西さんは西から、中間地点で落合いましょう」という話が盛り上がり、実現した次第だ。

土曜日の朝7:30にセンター集合。なかには朝起きることができるか心配で、前日からセンターの近所に住んでいる同僚の家で前夜祭をしてきた者もいたらしい。



バスは、一路紀州路へ。上富田、周参

見、試験依頼でみた地名が…こんなところ、あんなところから土が来ていたのか。

熊野古道へ到着。入口に置いてある木の杖を片手に林の中へ入ると、左と右におおきなおおきな夫婦杉のお迎えだ。もうすこし進むと、人が入れるほどの木の軀があり、「おーい、中から空が見えるぞ」と専務理事の声に誘われ、数人で記念写真。それにしても、西田顧問と藤田顧問の健脚には驚かされた。「待って下さい」の声も届かず、先頭グループへ消えて行かれた。



日の高いうちに宿について温泉三昧。「当ホテルは大洞窟温泉忘帰洞が有名ですが、他にも6つの温泉があり、それぞれ楽しめます」との案内どおり楽しんだ。

日も暮れ、中部さんと合流、合同懇親会が開催される。普段、電話でしか話をしていない人たちとも顔を見て笑って話をすれば、まったく印象が違うものだ。お互いが同じ試験をしているものであれば尚更である。

有意義な一夜が明け、疲れた人々を乗せたバスは、途中で渋滞に巻き込まれながらも昼食場所の海南黒潮市場へ到着。疲れた胃袋ながら、BBQを美味しくいただく。

16:30 センター着。お疲れ様でした。



最後に、今回の研修旅行にご配慮いただきました組合員ならびに関係者の皆様には心より御礼申し上げます。



編集後記

新型インフルエンザが世界中で、猛威を振るった5月中旬。世界では、死者も出ている。

『日本はまだ、医療機関の体制が出来ているから…アメリカは医療費が高くて医者行けない…メキシコは、医療機関の不備…』とかテレビであるコメンテーターが言っていた。

確かに、ゴールデンウィーク明けの報道は激しく、某大臣が「予防にマスクを…」と報道されると、マスクの売れ行きが上昇し売り切れる始末。

先日の新聞に、兵庫県内のある2市での、インフルエンザの予防アンケート結果が掲載されていて、「マスクをしてないのは、『していない』のでは無く、マスクが売ってなくて、『できない』」と言うのが理由の大半。

確かに、関西地方のマスクの消費は、異常だったかもしれない。この時期どこに行ってもマスクは品切れ状態。1年で消費するマスクを上回る出荷だったようだ。その後、「マスクでは、予防にならない。」と報道されると、マスクが、少しずつお店に並び始めた。自分の乗っている通勤電車内の、マスク使用率も80~90%（自分の目線）を示していたが、ここ最近（6月初旬）は、0~5%程度と減ってきている。インフルエンザも下火になって兵庫県や神戸市で安全化宣言も出ている。

まあ普段、マスクをするという習慣も、日本特有なもの。世界では、マスクしている人は、重病人か医者くらいしかいないらしい。

何か、報道に踊らされているような感じも否めないが、予防は、こまめな「うがい」「手洗い」が一番効果的のようです。

マスク流行が無くなると、必ず、電車内でも1人はいる、手などで口を押さえず咳やくしゃみする人も復活する。でも、インフルエンザ騒動の最中は、マスクをしていたはずで、マスク無しで、くしゃみや咳をすると、周囲の目線が痛かっただろう。

自然気温の変化や、冷房が効いた電車内など気温変化が激しい昨今、夏でも風邪をひく人が増えている。“咳やくしゃみをするな！”とは言えないが、マナーとして、騒動時に買った“マスク着用”も良いのでは？

(山岸 記)